

はにい

気持ちが姿に

平成24年8月20日

5年生ともなると、周囲の目が気になったり、行動を躊躇するような姿も見られるようになってきます。

「4月の頃は男子の活発さにおされてしまって、女子は手が拳がらなかったんです。手を挙げるところか、日直で前に出ただけで泣いてしまう子もいて・・・」当時の様子をそう語る栗原先生。

そんな学級の実態から、授業ではペアやグループでの話し合い場面を多く設定し、互いの考え方の違いを知る。また、月に1度は、児童全員と個人面談をし、一人ひとりと向き合うことを心がけた。

こうした日々の積み重ねから、7月の授業では児童の姿に、こんな変化が見られました。



<のびる手>

「さあ、この数字の並び。よく見て。もっともっとよく見て！」という先生の問いに自分の気づきを答えようとする児童。

<丁寧なノート>

「さあ、次の問題です。」先生が話し出すと、さっと、そして自然に皆がノートを書き始めます。

しかも、どのノートも大変丁寧。



<書く姿勢>

ノートに手を添えて背筋が伸びた書く姿勢。授業を大切にしたい、自分の考えや分かったことを大切にしたい。そんな思いがノートを書く姿から伝わってきました。

誰もが安心して自分の考えを発表できる教室だから、様々なつぶやきが生まれ、その伝えたい思いがのびる手に表れ、子どもたちの背筋を伸ばす。

授業を終えて、栗原先生はこう語りました。「今日は子どもたちの考えが広がりすぎてしまうのを恐れて課題を簡単にしすぎてしまった。ちょっと僕が尻込みしてしまったのです。次はもっと・・・」

次はもっと、ああしたい。こうしたい。

そんな栗原先生の気持ちも、授業に臨む子どもたちの姿に表れているのかもしれない。

かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』 は、コミュニケーションツールです。
受けとりあって、みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp